

神戸税関附近の春の外來植物

岡村はた

5月18日の日曜日に税関附近の外來植物を採集した。九時、集つた十名内外の者は市電三宮より南にむかい徒歩約5分の所にある税関前の東遊園地附近より採集をはじめた。この辺の草は20cm迄のギョウギシバ、チヨウセンシバ、シバ等で所々に丈の高いナガハグサ(ケンタツキープリユーグラス)、イヌムギ、ナギナタガヤ、スズメノチャヒキの群落のみられた。その間にはまだ穂の伸び切つていないノゲナシドクムギや舌の特に長いヒメコバンソウがまじつて生えていた。公園にはトベラが沢山植えてあり真さかりでハチ、ハエが特に多かつた。まだオオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヒメシオン、アレチノギク、アレチギシギシ、オオケタデ達の全盛には程遠いがそれでももう既に彼等は30cm余りに伸びていた。この類は草丈と被覆面積の広い事とでやがて他を圧してしまふだろう。辺の木のかげにはコマツヨイグサ、ヒメスイバ、タチチチコグサ(ホザキノチチコグサ、エダウチチチコグサ)、コマゴヤシ等が生えていた。この辺のタンポポはと言えばセイヨウタンポポで日本のタンポポが即ち苞の真直なのもうみられない。少し日当りのよい所には、オオマツヨイグサ、ハダカアキノキリンソウ、オオアワダチソウ等が群落をつくる、又シバの間にはタチイヌノフグリ、イヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ハナイバナ、オランダミミナグサ等のみられた。

公園を南に出て税関の少し北で西におれる。広いアスファルト道路の中央には10m間隔位にトベラ、ボケ、イトランがあり、所々にカンナ等も植えられている。その下草にはシナガワヘギ、コマツブウマゴヤシ、カラスノエンドウ等。又所々にヘラオオバコ、ツボミオオバコ、シロツメクサ、クソニンジンが群生開花している。ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、ヒメシオン、ノボロギクの30cm余りになつたのもやはり多い。この辺よりムギクサの群落をみかけた。勿論然しシバをのぞけば優占種はイヌムギ、オオアレチノギクである。乾き切つたコンクリートわくで壊された海岸辺の狭い畑のふちに、のげの青紫になつたムギクサが一面にのびて風になびいている様は美しく涼しそうでもう全く初夏の感ありで今日あたりは夏服でもよかつたのだ。北におれて今度は焼跡に出た。

こゝは焼けて残骸になつたレンガ作りの大建築を細破したらしく直径20cm位のコンクリートとレンガ

の破片で凸凹である。その間には所々に緑色の群落のみられる。半分とりはずしかけたさくの間にはツルドクダミが登りつつあつた。そこで暫々はベニバナアカシア、ロボウガラシ、カキネガラシの点在をみた。然しそれでもその中程に東西に流れる浅い汚い溝は種々な雑草を生育させるのに充分である。この流に沿つては緑色帯が連続している。この辺の主なものヒエガエリ、Sorghum sp.(シヨソソモロコシ 仮称)イヌムギ、ドクムギ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ等であつた。所々に堀りおこした跡があり、人の住んでいるらしいバラックもあり、その附近にはオランダハクカ、アマ、クジラグサ、Lactuca sp.、タチニワナギ、ホウキギ、マツベリ等が生えていておもしろい。こゝを東に抜けて市電を横ぎり更に東にゆく。途中のみぞに矮性のハマツメクサが寄生していた。この辺も焼跡であるが此所はもう一面草原で禾本科イヌムギ、スズメノチャヒキ、カラスムギ、マカラスムギ、ムギクサ、ホソムギ、ドクムギ、ネズミムギ、カモガヤ(オチャード、グラス)等。種類からみても、面積からみても禾本科は実に多い。この類は実が他物につきやすく、又稈の用途等の関係で人に運ばれやすく急速に分布範囲をますという。しばらくこの辺を歩きまわつた。その間イバラ科のオキシムシロ、草丈20cm位の蕾を持つたキキョウソウ、シロバナノシナガワヘギ(コゴメヘギ)やロボウカラシ、コウベナズナ(マメグンバイナズナ)、グンバイナズナ、フタクサ、ホウキギク等のみられた。ハルノグシのもう白くなつたのが特に眼についた。そこから再び東遊園地に帰り昼食をした。丁度眼前のイタジイ、トベラが花ざかりで特異の悪臭を放つ。

午後は更に海岸に近づく為に先程の外人墓地の南東に道をとつた。この辺もアスファルト道路の両側は焼跡で禾本科の群落がつづく。然し路傍の溝附近には、カミフレモドキ、ウマゴヤシ、ノダイオウ、Discopleura sp.(ニンジンモドキ 仮称)アメリカセンダングサ、アメリカアリタソウ、ムラサキカタバミ、オナノミ、ヤリクサヨシ、イヌホウズキ等をみる。更に汽車道を横ぎり道はいよいよ海岸に近づく。この辺は荷積みみの為の汽車道が錯綜している。このレールの附近はゴミゴミして、ほとりつばいが土の色は落付いた黒色である。そこには狭い所ではあつたが、レールに沿つてゆくと、繖形科コエンドロ、十字科 Sinapis 属の

シロカラシと他に1種、ハイアオイ、ライムギ、ノムラサキ等を採ることが出来て此所だけでも充分吾々を満足させた。

此所から道は狭くなり巾1m。海岸といつても此所は大神戸港の一部である。海面は高さ2m余りのコンクリート崖の下にあるのだ。所謂ミナトを目前にみたのははじめてであつた。このせまいコンクリートの道をつきぬけると再び樹木や船のみえないアスファルト道路、半異国調のモザイク建築街に出る。此所を西にぬけ市電小野浜で解散。午後2時であつた。

戦前にはこの辺に鮮やかな濃桃色花のアメリカフロロヤ北米原産禾本科の異品クリノイガ、又日本に於いて此所で始めて室井先生が1939年に採られたというキクノハアオイ等が生えていたのだが、今日はこれ等を一株も発見出来なかつたのは残念であつた。

(May, 18, 1952)

採集植物目録並びに類似植物の検索

(☆は在来のものとの比較のために)

單子葉植物

- イネ科
- Avena fatua L. カラスムギ
- A. sativa L. マカラスムギ
- { 2~3cm黒紫色の芒あり、野生品 カラスムギ
- { 芒なし 栽培品 マカラスムギ
- Briza minor L. ヒメコバンソウ
- Bromus unioloides Humbold, Bonp. et Lunth イヌムギ
- { 芒あり、穎花は円筒形、葉鞘逆微小毛密生 スズメノチャヒキ☆
- { 芒なし、穎花は扁圧、葉鞘に毛なし イヌムギ
- Festuca myuros L. ナギナタガヤ
- Hordeum murinum L. ムギクサ
- Lolium multiflorum Lam. ネズミムギ
- L. perenne L. ホソムギ
- L. temulentum L. ドクムギ
- L. temulentum L. var. leptochœtan A. Braum ノゲナシドクムギ
- { 外穎は小穂より短い { 外穎、外殼共に有毛 ネズミムギ
- { 外穎、外殼共に無毛 ホソムギ
- { 外穎は小穂より長い { 芒あり ドクムギ
- { 芒なし ノゲナシドクムギ
- Phalaris canariensis L. ヤリクサヨシ
- Poa pratensis L. ナガハグサ
- { 花梗円滑、横定莖あり ナガハグサ
- { 花梗粗糙、直立莖 カワライチゴツナギ☆
- Secale cereale L. ライムギ

Sorghum halepense Peus.

ジヨソソノモロコシ 新称

北米の雑草で高さ1.5m内外、ジヨソソングラスと呼ばれ神戸市内焼跡、明石辺に散在する。

双子葉植物

- タデ科
- Amblygonon pilosum Nakai オオケタデ
- Pleuropterus multiflorus Turcz. ツルドクダミ
- Rumex Acetosella L. ヒメスイバ
- R. conglomeratus Murray アレチギシギシ
- { 茎高さ20cm内外、葉は披針形、三出、底部は戟状 ヒメスイバ
- { 茎高さ70cm内外、葉は長楕円形、單一、底部は円形 アレチギシギシ
- アカザ科
- Chenopodium antherminticum L. アメリカアリタソウ
- Kochia scoparia Schra. ホオキギ
- ナデシコ科
- Cerastium vulgatum L. var glomeratum A. P. D.C. オランダミミナグサ
- { 茎、葉に粘毛あり オランダミミナグサ
- { 茎、葉に粗毛あつて粘毛なし ミミナグサ☆
- アブナラ科
- Descurania Sophia Webb クヅラグサ
- Lepidium virginicum L. マメグンバイナズナ
- Sinapis alba L. シロガラシ
- S. sp. 種名目下調査中、
- { 果実日毛あり、葉は長楕円深裂す。 シロガラシ
- { 果実毛なし、葉は円形 Sinapis sp.
- Sisymbrium officinale Scopoli カキネガラシ
- Diplataxis tenuifolia DC. ロボウガラシ
- Thlopsi arvense L. グンバイナズナ
- バラ科
- Potentilla amurensis Mæx. オキシムシロ
- マメ科
- Medicago denticulata Willd. ウマゴヤシ
- M. lupulina L. コメツブウマゴヤシ
- M. minima Lam. コウマゴヤシ
- Melilotus alba Desr. シロバナシナガワハギ (コゴメハギ)
- M. suaveolens L. シナガワハギ (エビラハギ)
- Trifolium repens L. シロツメクサ (オランダゲンゲ)
- Vicia angustifolia ホソバナカラスノエンドウ

Vicia sativa L. カラスノエンドウ

A1 葉に巻きひげなし

B1 茎は直立す

C1 茎に軟毛あり、花は白色 シロバナシナガワハギ

C2 茎は殆んど無毛、花は黄色 シナガワハギ

B2 茎は横走す

C1 花は白色、果実は螺旋せず ツメクサ

C2 花は黄色、果実は螺旋

D1 茎は無毛、果実に粗毛あり ウマゴヤシ

D2 茎は軟毛あり

E1 果実に粗毛あり コウマゴヤシ

E2 果実に微毛あり コメツブウマゴヤシ

A2 葉に巻きひげあり

B1 小葉、先端凹頭 カラスノエンドウ

B2 小葉、先端然らず ホソバカラスノエンドウ
カタバミ科

Oxalis violacea L. ムラサキカタバミ
ア マ 科

Linum usitatissimum L. ア マ
ア オイ 科

Malva rotundifolia L. ハイアオイ
アカバナ科

Oenothera lasiniata Hill. コマツヨイグサ

O. Lamarkiana Seringe オオマツヨイグサ

O. odorata Jacq マツヨイグサ

{ 多年生、葉は被針形、中肋赤色 マツヨイグサ

{ 二年生 { 茎分枝60cm被針葉 コマツヨイグサ

{ 茎直立150cm長楕円葉 オオマツヨイグサ

セリ科

Apium ammi Vrbn マツバゼリ

Coiandrum sativum L. コエンドロ

Discopleura lactiniatum (Engelm et Grey)
Benth. et Hook. f. ex S. Wats.

ニンジンモドキ (広江氏新称)

{ 葉1~2羽状中裂又は全裂 本種

{ 葉2~3回羽状全裂 *Daucus* (=ニンジン) 属

ニンジンモドキはニンジン属近縁のもので総苞片は1~2回羽状全裂して葉状をなす。本種は北米の植物で日本での採集はこれが最初であろうと広江美之助氏は言われた。標本は京大標本室に保管されている。

ムラサキ科

Lappula echinata Gilibert ノムラサキ

オドリコソウ科

Mentha viridis L. var. *crispata* Benth. オランダハクカ

ナス科

Solanum nigrum L. イヌホウズキ

ゴマノハグサ科

Veronica arvensis L. タチイヌノフグリ

V. persica Poiret オオイヌノフグリ

V. agrestis L. イヌノフグリ

{ 茎は直立 { 花は藍、実は平形 タチイヌノフグリ

{ 花は薄桃、実は円形 イヌノフグリ

{ 茎は横走、花は藍色 オオイヌノフグリ

オオバコ科

Plantago virginica L. ツボミオオバコ

P. lanceolata L. ヘラオオバコ

{ 葉は緑色毛少し

{ 葉は白色毛多し ツボミオオバコ

キキョウ科

Specularia perfoliata DC. キキョウソウ

キク科

Ambrosia artemisiaefolia L. フタクサ

Aster subulatus Mich. ホウキギク

Bidens frondosa L. アメリカセンダングサ

Erigeron canadensis L. ヒメムカシヨモギ

E. linifolius Will. アレチノギク

E. Flahaultianum Thell. オオアレチノギク

{ 葉縁は波状、深緑色頭状花 直径6~8mm アレチノギク

{ 葉縁は直或(頭状花径4~5mm オオアレチノギク

{ はまれに波 浅緑色 // 径2~3mm ヒメムシヨモギ

Gnaphalium purpureum L. タチチチコグサ

{ 花は茶 茎高30~50cm軟質中心 以上で分岐葉倒被針形 タチチチコグサ

{ 褐色 茎高15~30cm硬質、基部で2~3分岐葉被針形 チチコグサ

{ 花は黄色、葉は線状倒被針形、茎は基部で2~3分岐、軟質 ハハコグサ☆

Sonchus oleraceus L. ハルノノグシ

Lactuca sp. ナシヤー種

個体数は多いが未開花につき検定不能

Taraxacum vulgare Schrank セイヨウタンポポ

{ 総苞片は反転、花は褐色 西洋タンポポ

{ 総苞片は反捲せず、花は橙色 関西タンポポ☆

Xanthium japonicum Widder オナモミ

Anthemis Cotula L. カミツレモドキ

(以上)